

大正13年刊行の『糟屋郡志』を読む(4)

一 町村と鉄道

県内での糟屋郡の位置や東西南北の長さ、面積などについて述べた後に次のように書かれています。

中央に宇美川、多々良川流れ、土地肥沃にして田圃開け、魚介・薪材・穀菽・果菜及び石炭を産す。又交通の便、最も善く、郡内に鉄道停車場二十駅あり。且つ福岡の大都市は目睫の間に接し、物貨集散の利、頗る可なりとす。

穀菽は穀類と豆類、果菜は果物と野菜です。糟屋郡の産業の特色として漁業・林業・農業・石

炭採掘を挙げていることになり。また、駅が20あると書かれていて、確かに交通の便がよかったです。これも石炭を搬出する必要があるにありました。大都会福岡市に隣接している物資の流通も盛んだ、と述べています。

次いで、当時の糟屋郡内の自治体を紹介しています。箱崎町・志免村・宇美町・須恵村・中原村・大川村・勢門村・篠栗村・久原村・山田村・多々良村・香椎村・立花村・青柳村・小野村・席内村・新宮村・和白村・志賀島村で、2町17村を数えます。

この内、志賀島村は「往昔本郡

の所属なりしが、中頃那珂郡に属ししを、明治十三年一月、復本郡に帰属したるものなり」と説明しています。古代は糟屋郡となつた、ということです。糟屋郡に再び入つたのは、糟屋郡と地続きだったことが重視されたのでしよう。那珂郡のままでは飛び地になってしまいます。

また、箱崎町から多々良村までの11カ町村がかつては表糟屋郡であつたこと、香椎村から和白村までの7カ村が裏糟屋郡であつたことにも触れています。表糟屋郡の中心が箱崎、裏糟屋郡の中心が香椎でした。

箱崎・多々良・香椎・和白・志賀島は後に福岡市に合併し、現在は東区に属しています。中原・大川は現在の粕屋町、勢門・篠栗は篠栗町、久原・山田は久山町、立花・新宮は新宮町で、また、青柳・小野・席内は古賀町を経て古賀市となりました。

志免・宇美・須恵は明治22年(1889年)の発足以来、町制施行はしていません。宇美村の合併はしていません。宇美村の町制施行は大正9年(1920年)、次いで志免村が昭和14年(1939年)、須恵村が昭和28年(1953年)です。

ここでは志免村と宇美町、須恵村についての記述を引用しておきます。

志免村 箱崎町の二股瀬とは、其の間に中原村の一小突角を挟みて地相続き、宇美県道及

び筑前参宮鉄道に沿つて、東南に曳ける長き村なり。南は筑紫郡に隣り、東は宇美村に続き、御手洗・別府・南里・志免・田富・吉原の六大字を有す。本村は海軍探炭部の第五坑の在る所にして近時著しく戸口の膨張をなせり。村の名義は大字志免が昔、宇美宮の第一の注連縄を曳し地なる故に名づくこと云々。

須恵村 宇美村の北に位し、若杉山の南西麓に在り。東は高山を負つて嘉穂郡に界す。同郡大分村に出づる間道をシヨウケ越と称し、昔時神功皇后も此処を越えて都に還り玉う。大字は東より数えて佐谷・上須恵・須恵・旅石・植木・新原の七あり。本村は海軍燃料廠探炭部に在る所にして、其規模頗る宏大なり。村の名義は大字上須恵に皿山ありて

陶器を製せしより出たり。

須恵村の名前の由来を、皿山で陶器を作っていたからだとしているのは間違いです。須恵が陶器の「陶」の字(陶を「すえ」と読みます)に関係しているのは間違いなところですが、それは古墳などで発掘される、古代の須恵器のことです。皿山で作られていたのは須恵焼という磁器で、時代も江戸時代です。つまり、須恵器から地名「須恵」が生まれ、須恵で作っていたので、磁器を須恵焼と呼ぶことになったのです。これは有田焼、高取焼などと同じ理屈です。

宇美町 志免村の東南に連なり、郡の南端を占む。(略)本町より隣郡筑紫に通ずる道に乙金越あり。又間道只越あり。共に大宰府に行くべし。本町は博多湾鉄道並に筑前参宮鉄道の終点にして、勝田・大谷等の炭山あり。礦業の盛んになると共に、土地の発展著しく、大正九年十月村を改めて町と称するに至れり。大字宇美、

上古は蚊田と云いしが、神功皇后、此の処にて皇子を生みましより宇美と云う由。洵に山紫水明の佳境にて皇子発祥の地に応じたるぞ。町の名義の起る所以なりける。

博多湾鉄道は現在のJR香椎線のことです。筑前参宮鉄道は現在は廃線となりました。『糟屋郡志』の鉄道についての記述を要約して、以下に紹介しておきます。

わが国の鉄道の初めは明治5年(1872年)で東京 横浜間のことである。明治9年7月には京都・大阪間が開通した。

明治19年に九州でも鉄道布設の議が起こり、翌20年1月に福岡 熊本・佐賀の3県知事が呼びかけた。2月には長崎県も加わり、九州鉄道の創立は4県合同の事業となつて、21年6月に九州鉄道会社が成立した。

明治22年12月、博多・千歳川間で営業を開始した。千歳川は久留米の筑後川手前で、後に筑後川に鉄橋をかけて23年3月、久

留米までが開通。一方、23年9月には博多・赤間間が開通した。これにより宗像郡赤間から博多を経て久留米までを通しての営業が始まった。この区間で糟屋郡には箱崎・香椎・古賀の3駅が置かれた。

博多湾鉄道は海軍水路部の測量で西戸崎付近の水深が深く、波も静かで、大艦巨船の停泊に適しているとされたことから、

ここを貿易港として開発し、また糟屋郡や鞍手郡の石炭の積み出し港とする計画が起きたものであった。明治29年に博多湾鉄道株式会社を企画し、33年に成立した。35年に工事に着手、37年1月1日、西戸崎・須恵間が竣工、営業を開始。

糟屋郡地図



『糟屋郡志』掲載「糟屋郡地図」

拜の便宜と、石炭搬出を目的に

それぞれ隣接する。

38年12月までに須恵・新原・宇美間が順次開通し、42年8月から大正4年(1915年)3月の間に酒殿・旅石間の分岐線も開通した。駅数は12。町内には須恵駅・新原駅・旅石駅。

筑前参宮鉄道は宇美八幡宮参

大正4年に創立、8年9月、吉塚・宇美間の営業を開始した。駅数6。亀山駅・南里駅・新志免駅・下宇美駅・上宇美駅・筑前勝田駅。新志免駅は博多湾鉄道(旅石分岐線)の志免駅と、また上宇美駅は博多湾鉄道の宇美駅とそ